

登録コード	L1440200		開講年度	2026			
担当教員	茅野 恒秀 他			副担当			
授業科目	社会学発展演習						
英文授業名	Sociology: Advanced Seminar						
授業タイトル	質的社会調査の方法						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室	人文313演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			社会学的な認識を構築するための質的社会調査法の考え方を理解できるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			質的社会調査によるデータ収集の手続きの体系を理解できるようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】			社会学的な認識を構築するための質的社会調査法の考え方を理解できるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			質的社会調査によるデータ収集の手続きの体系を理解できるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会調査法のうち、質的社会調査に焦点をあて、その基本的な考え方と作法、具体的な調査研究の進め方について理解することを目的とする。質的社会調査の方法論的レパートリーの中から、フィールドワーク、参与観察法、インタビュー法の3つを主に取り上げて、データの収集のための倫理的・技術的手続きと整理・分析の技法について解説する。授業期間中に、実際にインタビュー法の試行を通じて、実践的な技法の習得めめざす。あわせて、質的社会調査の技法を用いた研究論文の読解演習を行うことによって、研究成果への接続をはかる。						
授業計画	第1回 質的社会調査とは何か 第2回 調査計画の立案と調査倫理 第3回 フィールドワーク フィールドワークとは、テーマの設定 第4回 フィールドワーク フィールドワークの実施 第5回 フィールドワーク データ分析と論文執筆 第6回 インタビュー法 インタビュー法のねらいと手順 第7回 インタビュー法 生活史研究 第8回 参与観察法 参与観察法のねらいと手順 第9回 参与観察法 データ分析と論文執筆 第10回 質的社会調査法の多様なレパートリー 第11回 インタビュー法の実践 第12回 質的データ分析法 質的データ分析の基本原則 第13回 質的データ分析法 質的データ分析の実践 第14回 質的社会調査の技法を用いた研究論文の読解 第15回 質的社会調査の技法を用いた研究論文の読解 、授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	担当回のレジュメ（50％）および講義途中で随時課すレポート（50％）を対象とし、質的社会調査の基本的な考え方と作法、具体的な調査研究の進め方について理解しているかを評価する。						
成績評価の基準	1)質的社会調査の歴史と社会学との関係についての洞察力、2)目的や活用方法に応じた質的社会調査のさまざまな類型についての理解、3)質的社会調査の実施プロセスの理解と問題や対象の設定、調査手法に応じた作業課題の発展的能力を身につけることの3点について、提出されたレポートにおいて、それらの説明や考察の正確さが認められ、十分な能力涵養が達成されれば「卓越している」と評価する。以上の項目のいずれかに卓越さが欠ける場合には「かなり上にある」、以上の項目に妥当性が認められ、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	毎回の授業内容に即して、教科書および配布資料の該当部分を読んでくること。期間中に4-5回課すレポート課題が、事後学習のペースメーカーとなるが、毎回の事後学習が基盤をなす。						
履修上の注意	「社会学特論」「文化情報論特論」の単位を修得済みであることを前提とする。						
質問、相談への対応	オフィスアワーに社会学実習室にて授業時間外に質問・相談を行うことができる。授業終了後に口頭で、またはメールで事前予約されたい。メールでの質問・相談に対する返答も随時行うが、受講者全員に共有することが有益と判断される場合には、授業時間中に返答を行う場合もある。 メールアドレスはchino[at]shinshu-u.ac.jp						

教科書	岸政彦・石岡丈昇・丸山里美,2016,『質的社会調査の方法』有斐閣.
参考書	佐藤郁哉,2008,『質的データ分析法』新曜社. 前田拓也他,2016,『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版. 和田信明・中田豊一,2010,『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』みずのわ出版.